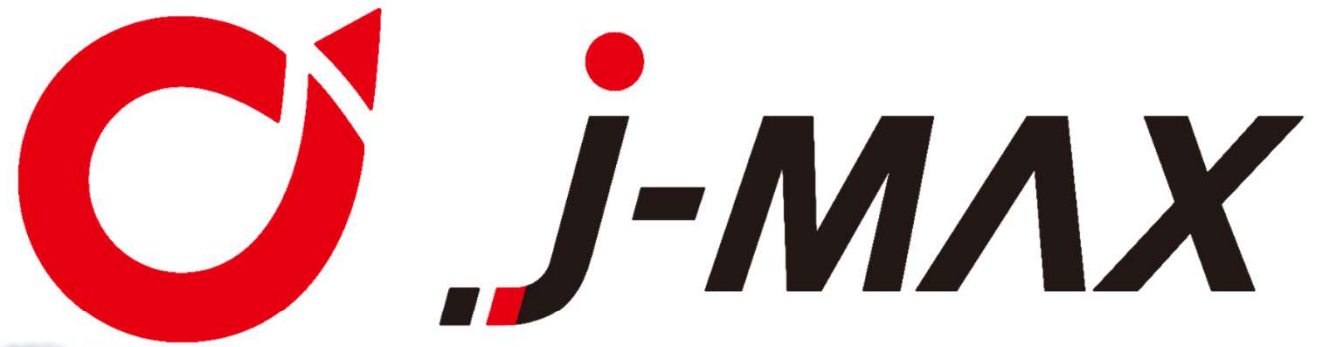




2025年3月期 決算説明会

株式会社 J-MAX

東証スタンダード・名証メイン コード：3422

代表取締役 社長執行役員 山崎 英次

報告事項

01

2025年3月期決算及び2026年3月期業績予想

02

成長へ向けた取り組みについて

報告事項

01

2025年3月期決算及び2026年3月期業績予想

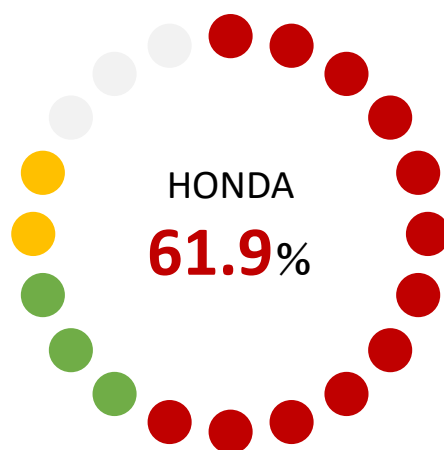
02

成長へ向けた取り組みについて

主要客先（HONDA）生産状況

●当社主要客先比率

その他 **16.7%**
NISSAN **9.9%**
TOYOTA **11.5%**



HONDA

本田技研工業(日本)
武蔵精密工業
ブルーエナジー
Honda Automobile (Thailand)
Thai Honda
広汽本田 (中国)
東風本田 (中国)

TOYOTA

アイシン
トヨタ車体
フタバ産業
岐阜車体工業

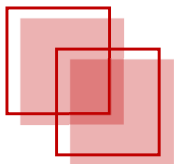
その他

Gestamp(日本)
Suzuki Motor (Thailand)
DAICEL (Thailand)
CATL(中国)
小鵬汽車 (中国)
Valeo(中国)
Webasto(中国)
吉利汽車 (中国)

●当社拠点HONDA生産台数

地域		2024年3月期 実績(千台)	2025年3月期 実績(千台)	前期比	状況
日本		601	613	+2.0%	鈴鹿 新軽(EV)の立上り、寄居主力車種前期比微増
中国	広州	654	411	▲37.2%	中国全土でEVシフト化が継続しており 主力工場で前年比30%を上回る大幅減産
	武漢	613	405	▲33.9%	
タイ	四輪	150	118	▲21.3%	国内市場の低迷に伴う国内生産台数の大幅減少、汎用エンジンの生産減が継続
	汎用エンジン	850	790	▲7.1%	
合計 (汎用エンジン除く)		2,018	1,547	▲23.3%	

国内生産は僅かに増加するも、中国拠点を中心に減産影響が大きく
アジア地域全体での生産台数は今期も前年を下回り▲23.3%の台数減となった



セグメント	HONDA	その他
日本	* N-VAN e:	【TOYOTA】 * 4RUNNER 【MITSUBISHI】 * OUTLANDER PHEV
タイ	-	-
広州	* e:NP2 * ENVIX	【TOYOTA】 * CAMRY 【小鵬】 * 2車種 【CATL】 * 13車種
武漢	* ENVIX * LIFE * e:NS2 * Lingxi	【日産】 * 1車種

※対象期間 日本：2024年4月～2025年3月、タイ・広州・武漢：2024年1月～2024年12月

自動車メーカー各社に対し積極的な営業活動を進めており
各拠点日系メーカーに限らずボディ・バッテリー関連部品の受注は順調に拡大中

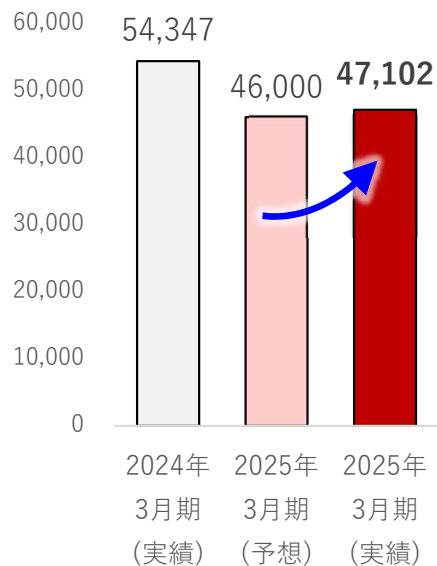
(単位：百万円)

売上高

47,102百万円

前期比 **▲13.3%**

予想比 **+2.4%**

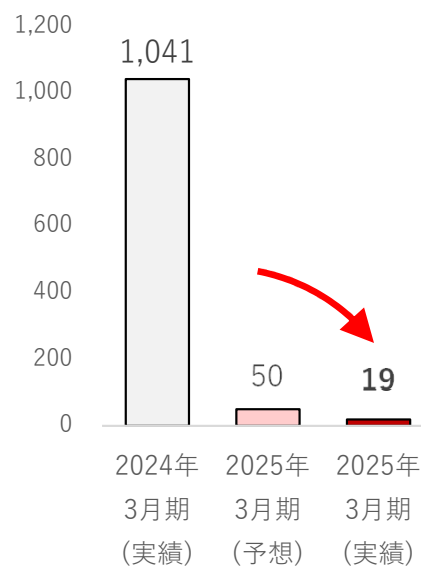


営業利益

19百万円

前期比 **▲98.2%**

予想比 **▲61.8%**

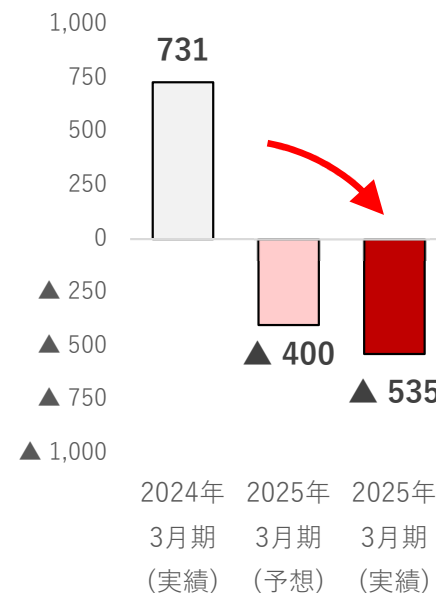


経常利益

▲535百万円

前期比 **▲1,266**百万円

予想比 **▲135**百万円

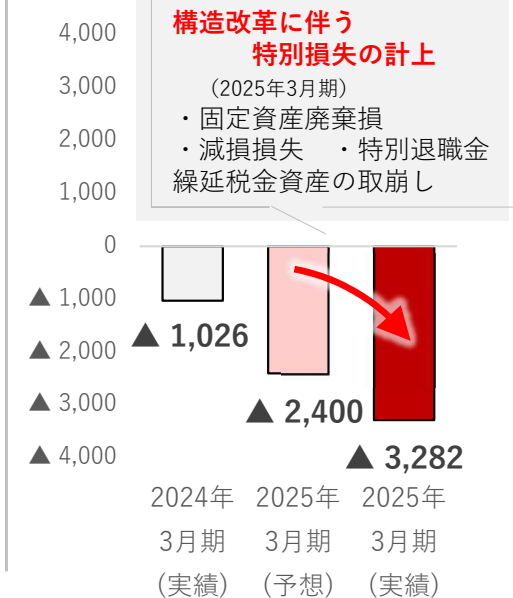


親会社株主に帰属する 当期純利益

▲3,282百万円

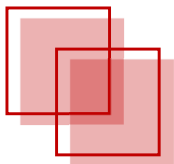
前期比 **▲2,255**百万円

予想比 **▲882**百万円



※前期比・計画比は、当期・前期・計画のうち、該当する数値の両方がプラスの場合は増減率、
当期・前期・計画のうち、該当する数値の一方若しくは両方がマイナスとなる場合は増減額で記載。

為替レート	2024年3月期 (円)	2025年3月期 (円)	増減 (円)	増減率 (%)
タイバーツ	4.04	4.30	+0.26	+6.4%
人民元	19.80	21.01	+1.21	+6.1%



連結四半期毎損益情報

	売上高 (単位：百万円)	営業利益率
第 1 四半期 2024年4～6月	11,106	▲1.6%
第 2 四半期 2024年7～9月	11,172 →	▲2.2% ↘
第 3 四半期 2024年10～12月	11,567 ↗	▲0.7% ↗
第 4 四半期(期末) 2025年1～3月	13,255 ↗	4.0% ↗
2025年3月期通期 2024年4月～2025年3月	47,102	0.0%

自動車業界においては、年度末に向けて売上が増加する傾向にある
また、構造改革の推進により営業利益は着実に回復している

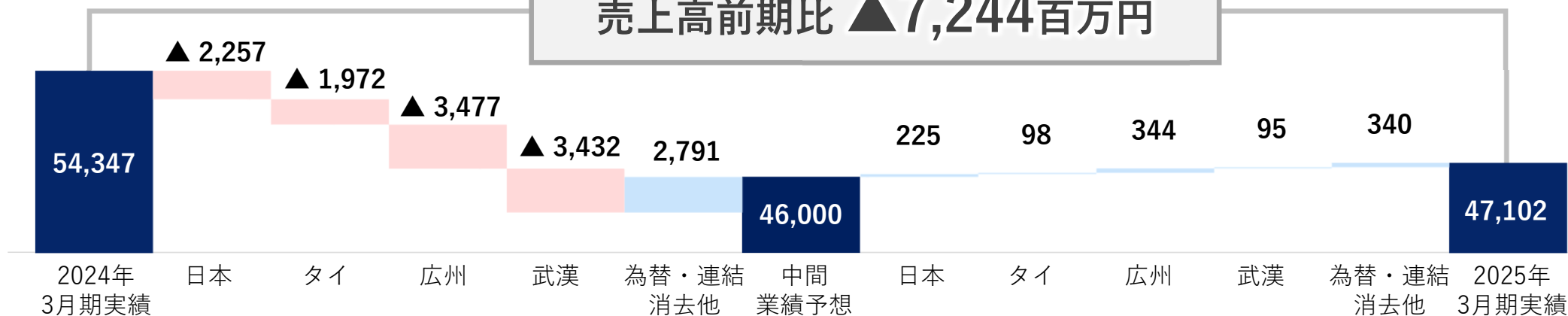
セグメント別業績予想比推移

8 / 25

◆ 売上推移

(単位：百万円)

売上高前期比 ▲7,244百万円

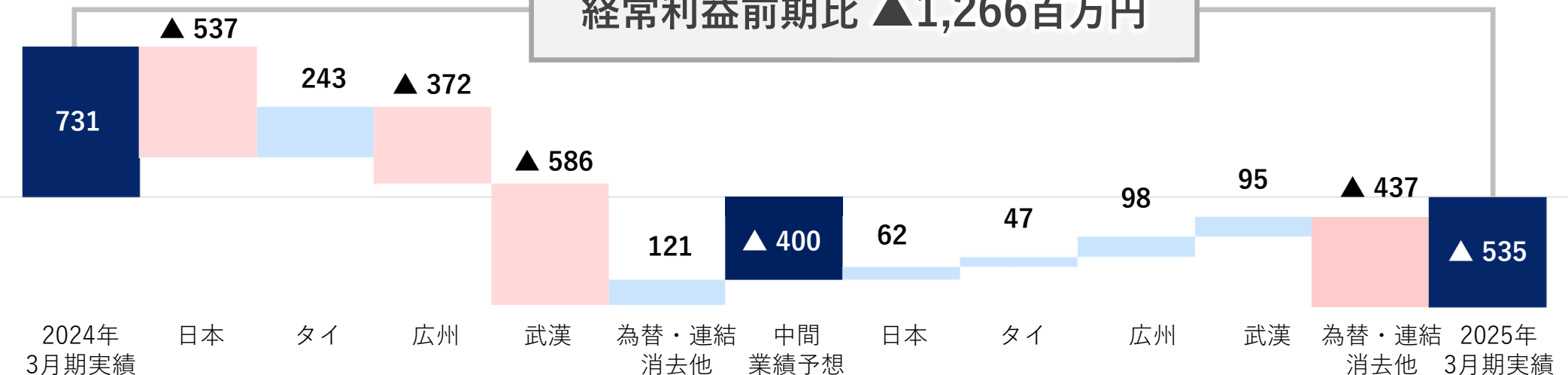


海外拠点を中心とした主要客先の減産影響により全拠点で減収、中間予想に対しては微増

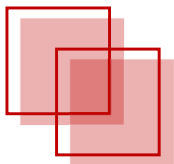
◆ 利益推移(経常)

(単位：百万円)

経常利益前期比 ▲1,266百万円



要員及び生産能力の適正化と生産工場再編等、構造改革の推進により原価低減・販管費削減を図るも、通期では為替影響及び主要客先の生産車種構成変化や減産影響等により経常利益は減益



売上高

19,391

百万円

前期比 ▲9.7%

営業利益

472

百万円

前期比 ▲50.2%

経常利益

754

百万円

前期比 ▲40.5%

主要客先向け自動車部品の**生産減少**に加え、金型設備等の**販売が減少**したことにより、**売上高は減少**

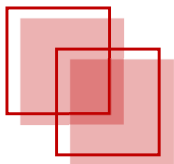
売上減少に伴う固定費負担の増加及び**生産車種構成変化の影響**に加え、**岡山工場準備費用の増加**等により**利益は減少**

※前期比・計画比は、当期・前期・計画のうち、該当する数値の両方がプラスの場合は増減率、
当期・前期・計画のうち、該当する数値の一方若しくは両方がマイナスとなる場合は増減額で記載。

J-MAXにおいては、新規受注先の拡大や新たな生産拠点の整備に加え、今後の競争力強化につながる研究開発の推進等、グループ全体の成長を牽引しております



岡山工場



売上高

6,154

百万円

前期比 ▲20.1%

営業利益

53

百万円

前期比 +201百万円

経常利益

▲92

百万円

前期比 +170百万円

主要客先の国内向け自動車部品及び汎用エンジン部品等の**生産減少**により、**売上高は減少**

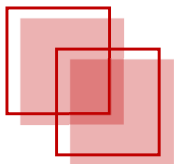
前期から継続して取り組んでいる**構造改革**として、要員適正化及び金型事業圧縮等を中心とした**原価低減活動を推進**したことにより、**経常損失は大幅な赤字縮小**

※前期比・計画比は、当期・前期・計画のうち、該当する数値の両方がプラスの場合は増減率、
当期・前期・計画のうち、該当する数値の一方若しくは両方がマイナスとなる場合は増減額で記載。

タイにおいては、タイ国内及び輸出先である周辺国における市場が成熟化する中、固定費削減を中心とした構造改革推進により、利益体質の強化を図っております



タイ・マルジュン社



売上高

13,822

百万円

前期比 ▲13.7%

営業利益

▲367

百万円

前期比 ▲369百万円

経常利益

▲714

百万円

前期比 ▲465百万円

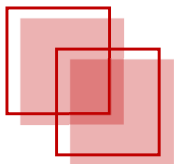
構造改革による要員適正化及び生産能力適正化等の取り組みに加え、生産工場再編に伴う不要資産売却を推進する等、利益体質強化を図っているものの、主要客先の大幅な減産影響等により、**売上高及び利益ともに減少**

※前期比・計画比は、当期・前期・計画のうち、該当する数値の両方がプラスの場合は増減率、
当期・前期・計画のうち、該当する数値の一方若しくは両方がマイナスとなる場合は増減額で記載。

広州においては、持続可能な企業体質構築を図るため構造改革を推進するとともに、中国で加速する自動車電動化の需要を取り込むため、電動化に特化した工場を建設する等、電動化事業の拡大を展開しております



福建丸順社



売上高

8,835

百万円

前期比 ▲24.5%

営業利益

▲186

百万円

前期比 ▲524百万円

経常利益

▲180

百万円

前期比 ▲442百万円

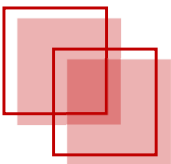
当期から開始した**構造改革**により、要員適正化に伴う労務費削減に加え、生産能力適正化等に伴う設備費、経費等の**原価低減活動に取り組んでいるものの**、主要客先の大幅な減産影響により、**売上高及び利益ともに減少**

※前期比・計画比は、当期・前期・計画のうち、該当する数値の両方がプラスの場合は増減率、
当期・前期・計画のうち、該当する数値の一方若しくは両方がマイナスとなる場合は増減額で記載。

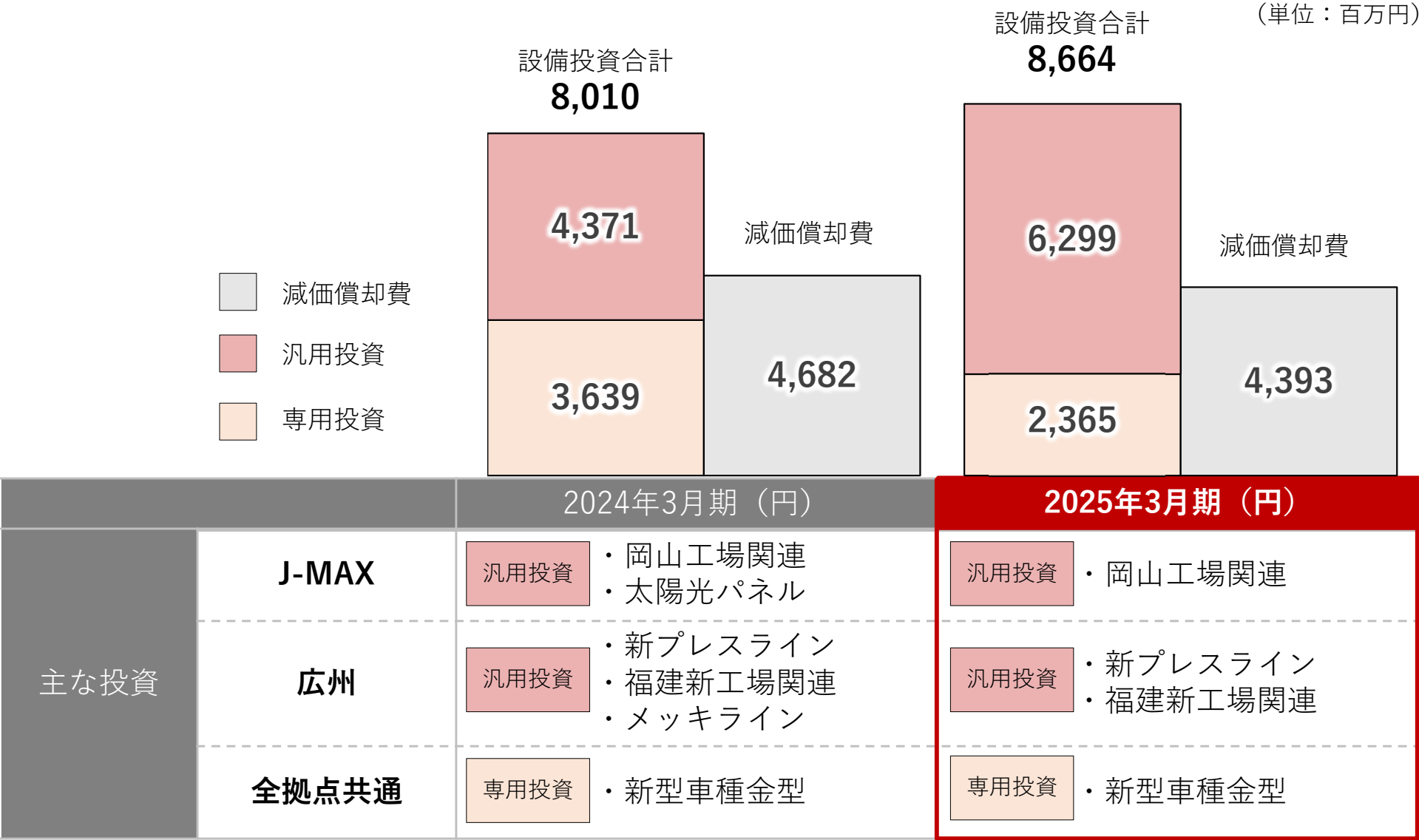
武漢においては、生産効率化及び原価低減活動等による企業体質強化の取り組みに加え、異素材加工の差別化技術の確立やEV市場の伸長による受注先の拡大等に取り組み、新たな収益基盤の構築に努めております



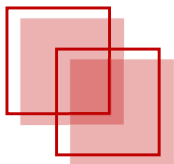
武漢丸順社



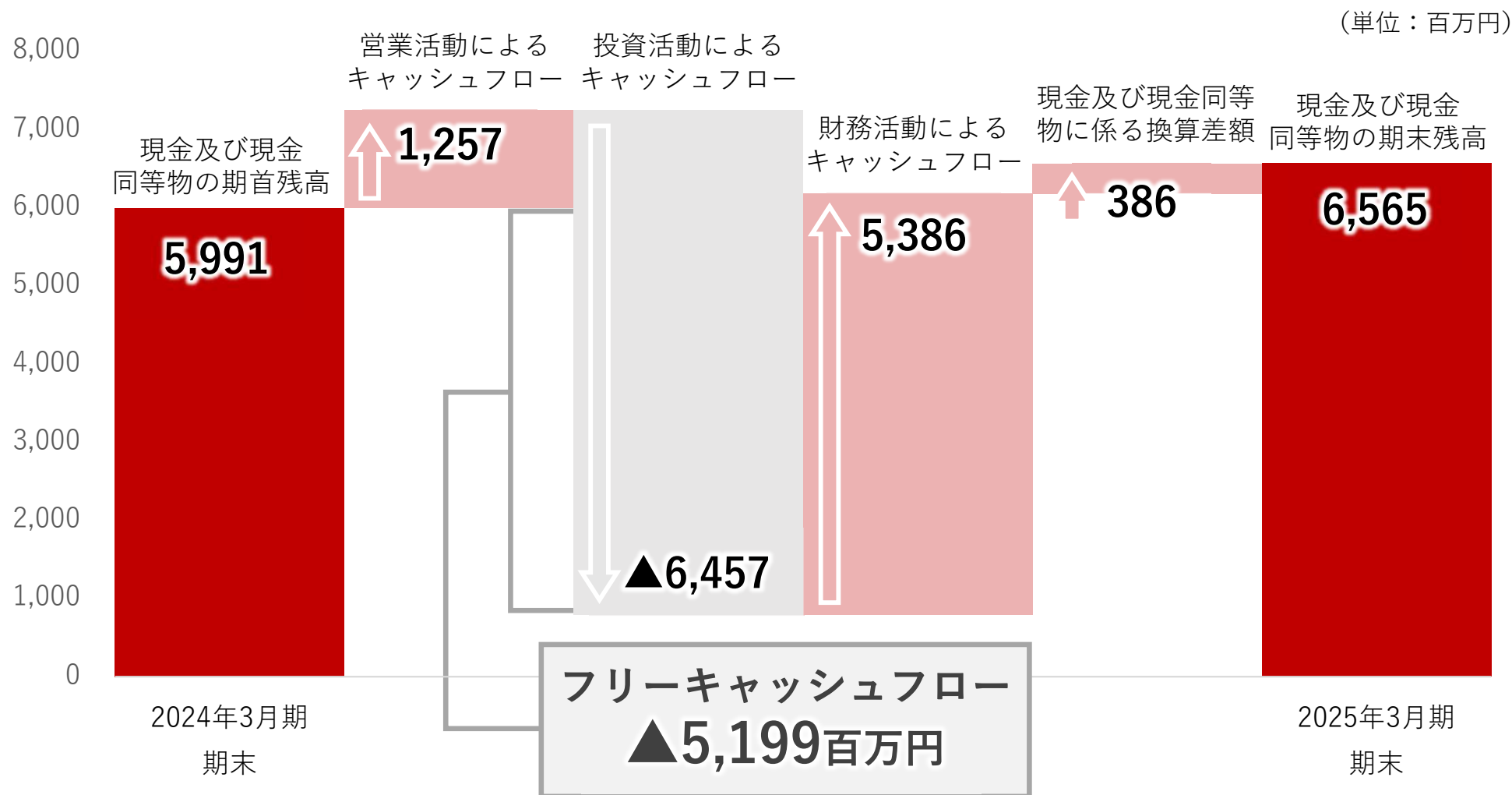
設備投資額、減価償却費



構造改革(生産能力適正化)の取組みにより減価償却費を抑制
日本(J-MAX)岡山工場及び中国福建新工場建設等の中長期的な成長への投資を中心に推進
専用投資は、金型投資における客先支払い方法の変更等により前期比減少



連結キャッシュフローの状況

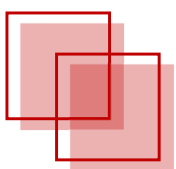


営業キャッシュフロー

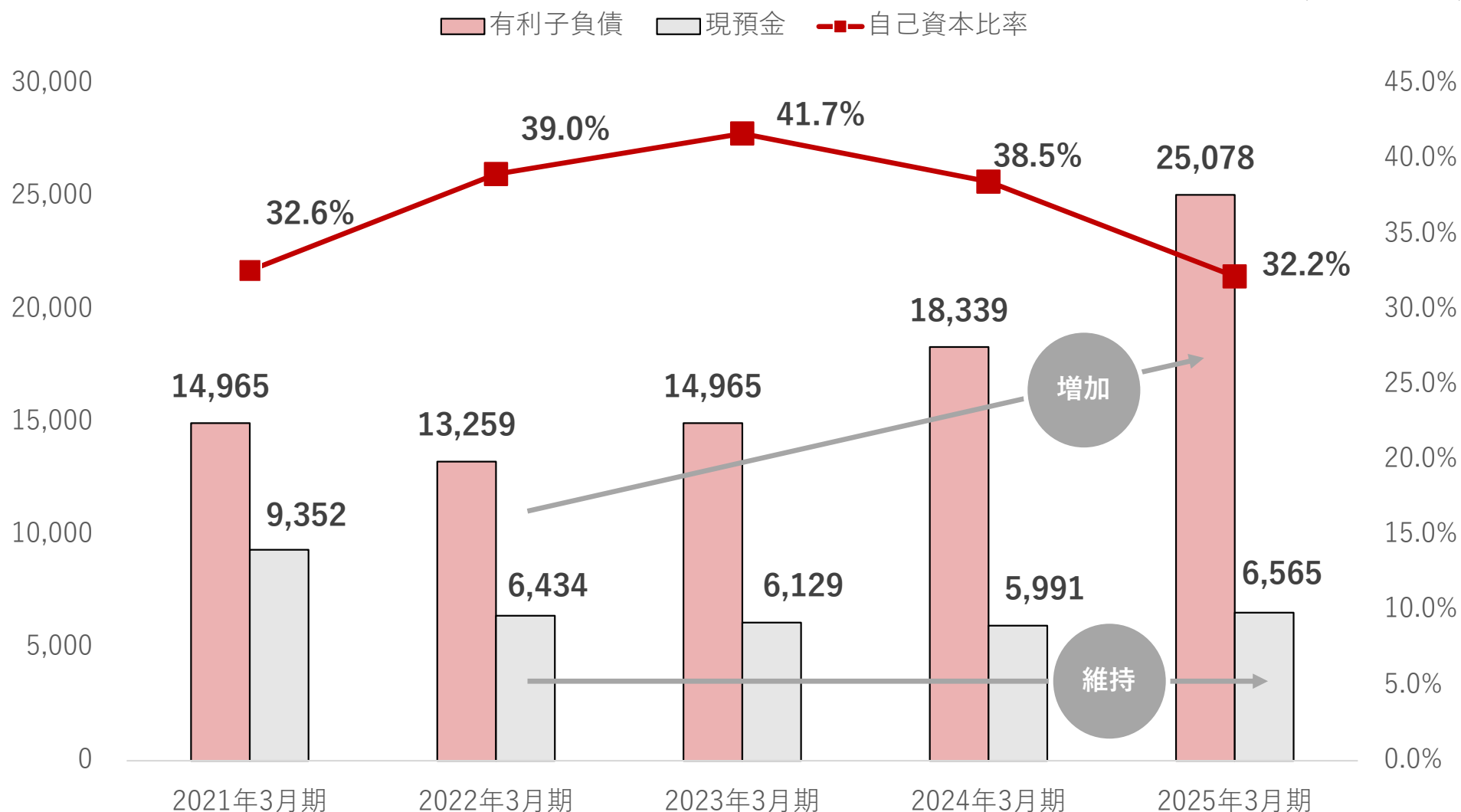
企業体質強化を図るため実施した構造改革費用の特別損失計上等により期間損益減少

投資キャッシュフロー

日本(J-MAX)岡山工場及び中国福建新工場建設等の将来の成長に向けた投資を実施



(単位：百万円)

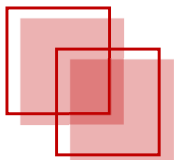


日本(J-MAX)岡山工場及び中国福建新工場立ち上げに伴う成長投資により有利子負債増加
自己資本比率については、一時的に低下するものの、一定水準を維持

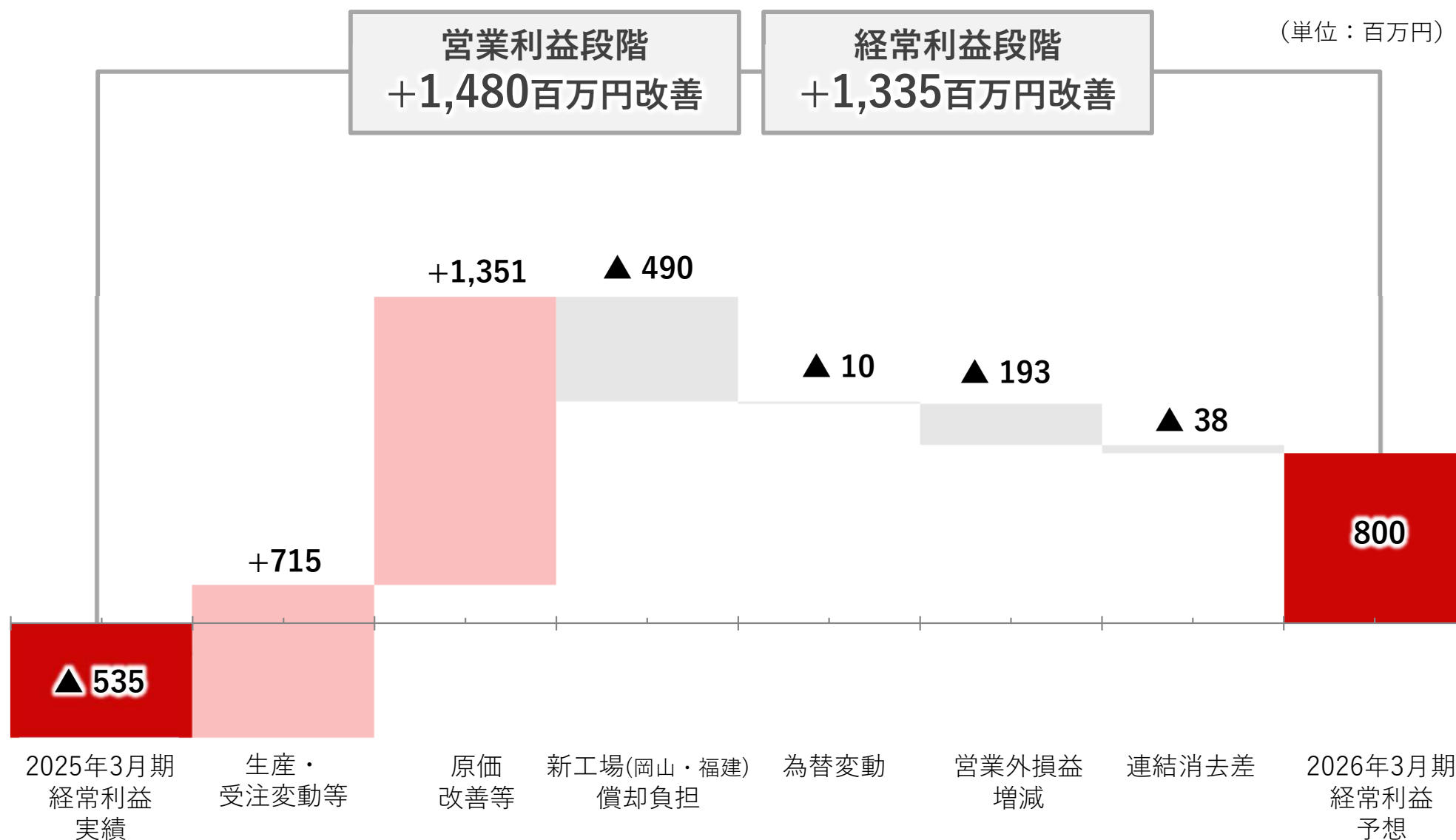
トランプショックによる消費の冷え込みや中国における電動化拡大の影響による主要客先の減産等を踏まえ、2026年3月期においても主要客先の減産が継続するものと想定し、業績予想を算出。また、日本(J-MAX)岡山工場及び中国福建新工場稼働に伴う売上高増加を反映。

(単位：百万円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	増減額	増減率
売上高	47,102	49,000	+1,897	+4.0%
営業利益	19	1,500	+1,480	+7,754.6%
営業利益率(%)	(0.0%)	(3.1%)		
経常利益	▲535	800	+1,335	-
経常利益率(%)	(-)	(1.6%)		
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲3,282	350	+3,632	-
当期純利益率(%)	(-)	(0.7%)		
一株利益(円)	▲286.34	30.53	+316.87	-
2026年3月期 (円)				
為替レート	タイバーツ：3.70、人民元：19.00			



増減要因(業績予想)



日本(J-MAX)岡山工場及び中国福建新工場の稼働により固定費負担は増加するも、新拠点における売上増加及び構造改革の継続効果等により、増益の見通し

報告事項

01

2025年3月期決算及び2026年3月期業績予想

02

成長へ向けた取り組みについて

中長期経営計画の基本戦略に対する進捗状況①

基本戦略		進捗状況 (2024年3月期～2025年3月期)	評価
01	ブランド力強化と 新規顧客開拓による 売上の拡大	- 岡山地区売上の拡大 - 中国電動化事業の拡大 	△
02	新事業確立に向けた 新商品の開発	研究開発の強化 	○
03	デジタルを駆使し プロセスを変革させ コア技術を進化	金型事業のビジネスモデル変革 	○
04	次世代工場の構築と 新しいモノづくりへの チャレンジ	- 生産工程の自動化 - スマートファクトリー化実現によるモノづくりの進化 	○

• 日本・中国拠点において電動化メーカーとの取引拡大
 • 西日本地区(岡山含む)の拡販順調
 • 開発と営業による共同営業
 • 売価の適正価格
 • 取引拡大等の取組みは順調であるが、特に中国における客先減産影響による減収影響が大きく売上額での拡大はできていない

• 電動化メーカーとの共同開発により、技術向上及び試作・量産受注
 • 循環型農業技術の構築

• 多能工化推進によりボトム体質を継続推進
 • 広州拠点において電池ビジネス対応としてビジネスモデルの変革推進中
 • CAE活用によるプロセス見える化
 • 自動化効率の拡大

• AGV(無人搬送機)やロボット等による自動化及びAI活用による自動測定等を推進中(部品投入～生産～検査～パレタイズまでの自動化ラインを構築)
 • 日本において浅西工場のプレス及び溶接設備の上石津工場への集約
 • 客先生産負荷変動対応に伴う部署を跨いだ応援体制の構築

中長期経営計画の基本戦略に対する進捗状況②

基本戦略		進捗状況 (2024年3月期～2025年3月期)	評価
05	DXの展開加速で 経営構造の变革	- 各種システムの導入完了 - システム適用範囲拡大中	○
06	持続的な成長に向けた 事業ポートフォリオの变革	グループ全体で構造改革を実施 J-MAX：工場再編を中心とした生産効率向上取組み タイ：金型事業縮小に伴う工場及び土地の売却 生産体制見直しによる要員適正化 広州：広州恒邦倉儲有限公司（旧：広州丸順社第1工場）の売却 客先の生産数に対応した生産設備の最適化 生産体制見直しによる要員適正化 武漢：希望退職の実施 客先の生産数に対応した生産設備の最適化	○
07	サステナビリティ経営 による企業価値の向上	- 重要課題より設定したKPIに対し、進捗確認できる体制を構築 - 資本政策は収益確保を優先課題に位置付けし、リソース強化を図る	△

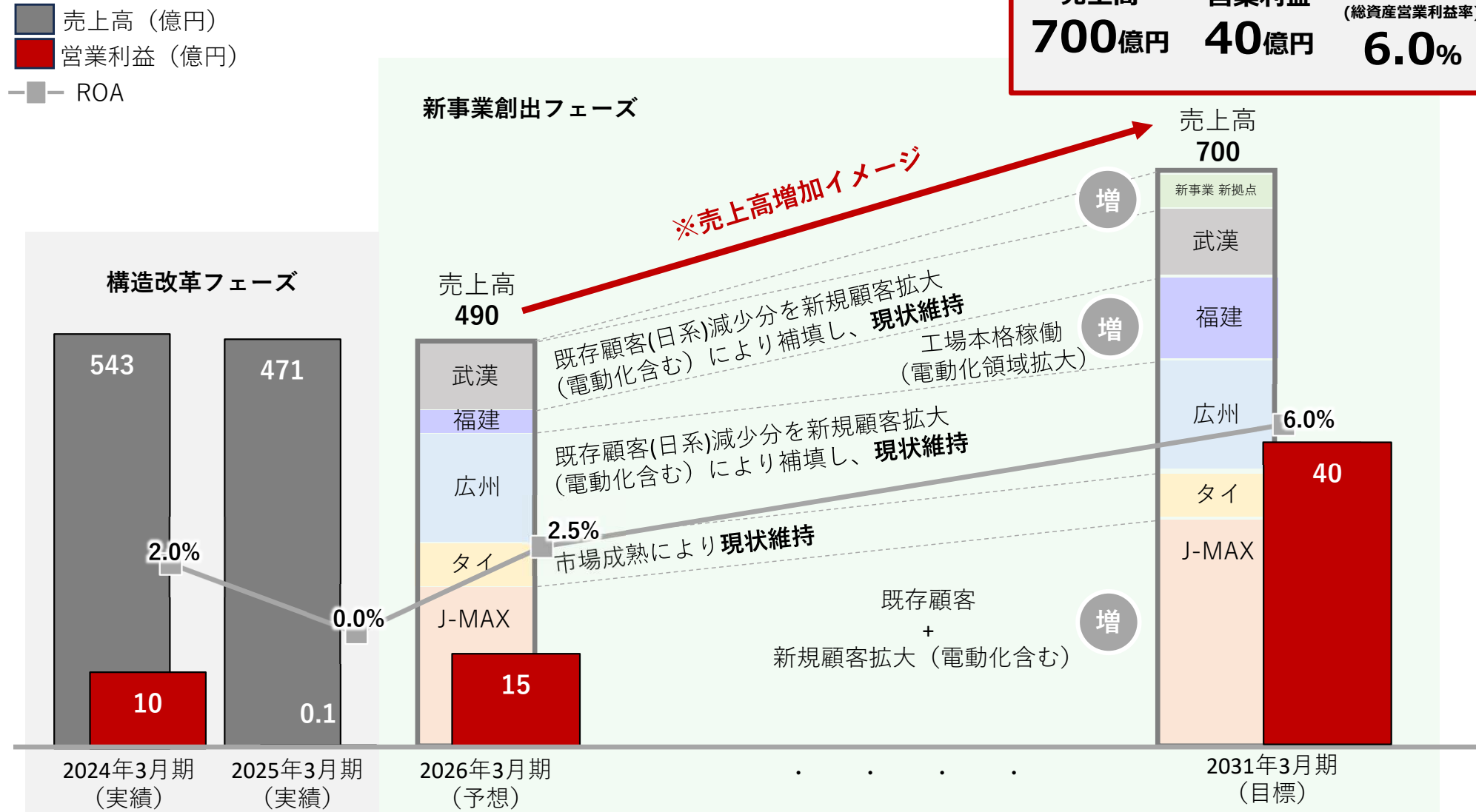
2024年3月期～2025年3月期は外部環境の変化により中長期経営計画の一部を軌道修正し、構造改革に注力したことに加え、将来の成長を見据えた取り組みも実施

中長期経営計画の目標値に対する進捗状況

●目標値とする姿への到達イメージ（売上高・営業利益・ROA推移）

2031年3月期目標値

売上高	営業利益	ROA (総資産営業利益率)
700億円	40億円	6.0%



2025年3月期は外部環境及び構造改革の実施等により2024年3月期を下回る実績となったものの、2026年3月期より徐々に目標値達成へと向かう

◆ 2025年2月 岡山工場建設完了(岡山県 浅口市) 国内3機目の大型プレス設備導入で生産能力大幅UP

25年7月
量産開始



【岡山工場概要】>自動車部品製造(ボディ部品)
所在地:岡山県 浅口市 鴨方

土地:約 23,000㎡ (約6,900坪) 岡山県
建物:約 8,000㎡ (約2,400坪) 浅口市
従業員数:30~40名

主要設備:3000tonトランスファープレス 1台
800tonプログレプレス 1台



開発センター(栃木県)
> 営業・開発



養老工場(岐阜県)
> 精密・電動化部品製造



浅西工場(岐阜県)
> 自動車部品製造



◆ 岡山工場生産車種

NISSAN / MITSUBISHI

「DAYZ / ek WGN,X」

「ROOX / DELICA MINI」

「SAKURA / ek X EV」

2019年



2020年



2022年



鈴鹿工場(三重県)
> 自動車部品製造

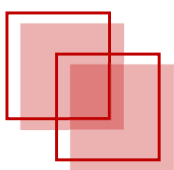


上石津工場(岐阜県)

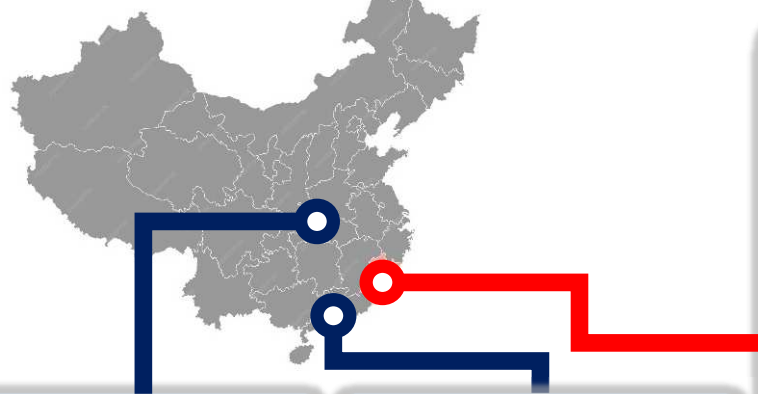
- > 本社機能
- > 自動車部品製造、金型・検具製造
- > 営業・研究開発



最新の大型量産設備を備え岡山地区の自動車メーカー向けのみならず
中国・九州地方への部品供給も視野に国内生産能力を拡大



◆ 2025年3月 福建工場稼働開始(福建省 福州市) 中国における電動化ビジネスの基盤強化と能力拡大



【福建工場概要】

➤自動車部品製造(大型バッテリーケース/カバー)
所在地：福建省福州市羅源县

土地：約 38,000㎡ (約11,500坪)
建物：約 30,850㎡ (約9,100坪)
従業員数：119名 ※25年3月時点



主要設備：2000ton オートTDM プレスライン
1000ton/800ton プレス 各1台
自動溶接ライン、カチオン/PVC塗装ライン等



武漢丸順/W-MAX

➤ 自動車部品製造
(ステハン,バンパービーム)



広州丸順/G-MAX

➤ 自動車部品製造
(ステハン,サンルーフ,フィラーパイプ)



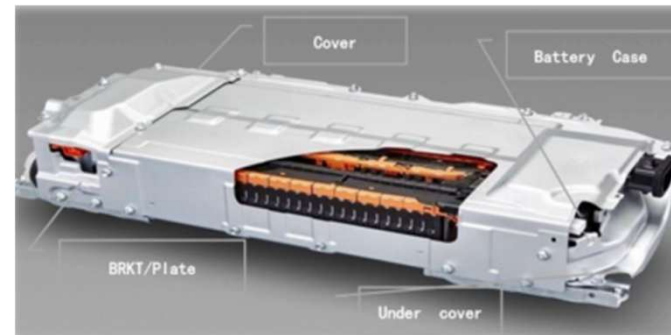
◆ 福建工場生産車種/部品群(イメージ)



広汽(AION Y)



Xiaomi (SU7)



COVER



BRKT



CASE



UNDER COVER

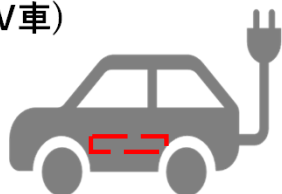


中国EVシフトに追従すべく、CATL社からは複数機種に渡りバッテリー関連部品を受注

-電動化関連TOPICS-

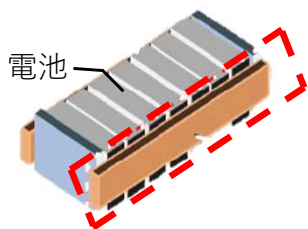
「特許取得」モジュールのスペース効率向上に貢献する新技術

電気自動車(EV車)



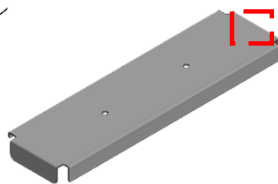
バッテリーモジュール

複数の電池を
組み合わせ、
必要な容量や
電圧を得る
ための製品



バッテリーフレーム

バッテリーモジュール
の構成部品
国内の電気自動車
にはほぼ100%搭載

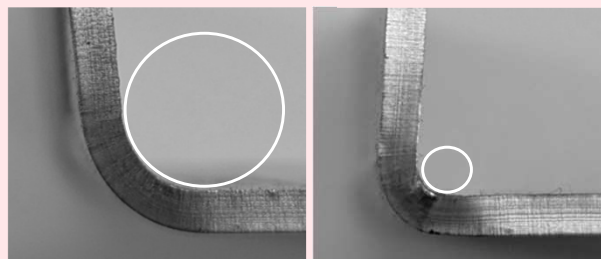


曲げRを小さくできたことで電池収納
に必要な平面を確保でき、収納する電
池スペース拡大！

1180材(スーパーハイテン材)
での加工に成功！

既存技術

開発技術

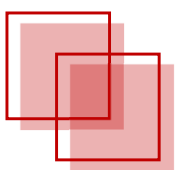


ワレ等の
技術的
課題を解決



現在でも複数のバッテリーフ
レームを受注しているものの、
当社の技術進化により、**多方面
での付加価値**を技術提案するこ
とが可能となり**競争力向上**。

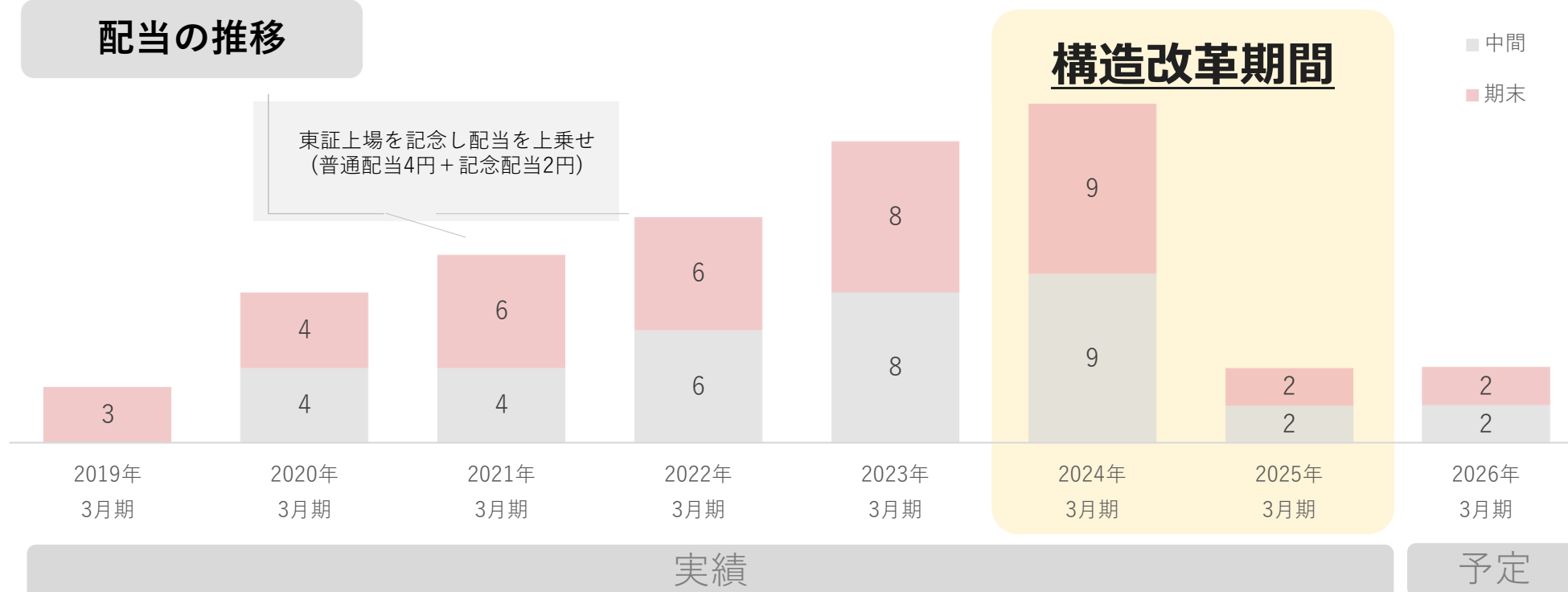
中長期経営計画の注力テーマである「電動化・軽量化に集中した電動化サプライヤーへの転換」に向け、研究開発の面から競争力強化を達成



当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策として認識しております。現中長期5か年計画(2024年3月期～2028年3月期)期間におきましては、成長戦略による収益拡大に合わせ、配当性向20%を基準とする方針としております。しかしながら、当社グループが属するアジアの自動車市場においては、中国を中心に急速に電動化シフトが進んでおり、ローカル部品メーカーの台頭に加え、主要客先の生産減少が継続する等、当社を取り巻く環境は厳しさを増しております。また、グループ全体で構造改革を実施しており、中長期経営計画の目標値への到達は当初の予定から3年程度後ろ倒しになる予定であります。

上記方針及び当社を取り巻く環境等を総合的に勘案し、当期における年間配当金は、1株につき4円（中間配当は2円、期末配当は2円）とさせていただく予定です。また、2026年3月期の利益配分については、中間配当は1株につき2円、期末配当は2円とさせていただく予定です。

配当の推移



技術で夢を

-Make our dreams by Technology-

▼ WEBSITE

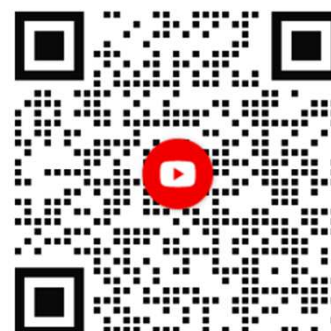
 HP ▶ <https://www.jp-jmax.co.jp>



J-MAXグループ
全体の情報を
網羅的に発信中！

▼ OFFICIAL SNS

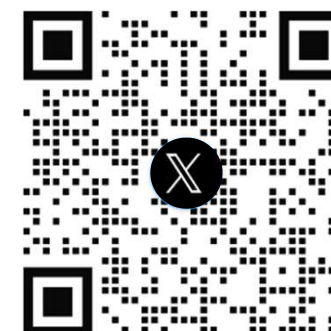
 YouTube ▶ @J-MAX3422



IR情報を中心に
動画で情報発信中！

▼ OFFICIAL SNS

 X(旧Twitter) ▶ @J_MAX3422



最新情報を
写真付きで発信中！

 株式会社J-MAX @J_MAX3422 · 4月21日
岡山工場の中をチラ見せ★
#岡山県 #岡山県浅口市 #自動車部品 #工場



この資料は、株式会社J-MAX（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。また、将来に関する記述については、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの内容とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

質問①

トランプショックにより
グローバル需要の
冷え込みが懸念されますが、
2026年3月期の業績予想では
どの程度その影響を
織り込んでいるのでしょうか？

質問②

売上規模が同程度の
部品メーカーと比べて
営業利益率が低水準と
なっておりますが、
構造改革後にどの水準まで
改善できる見込みですか？



ご清聴ありがとうございました

株式会社 J-MAX

(東証スタンダード・名証メイン コード：3422)